

実践から学んだキャリア形成 「手話パフォーマー」としての道

大阪スクールオブミュージック高等専修学校
総合音楽科 アクターズコース 俳優専攻 渡邊 千尋

私の将来の夢は役者になることです。舞台やテレビでも活動できることが目標です。私の強みは「手話」ができること。手話を使って、言葉や歌詞を伝える「手話パフォーマー」としても活動したいと思っています。

手話を使って夢を叶える為に、twitter を使い、色々な楽曲の歌詞を手話で表現した画像を作成し、アップロードしています。高校3年生になってからは、「自分のオリジナル曲」を作って、自分で歌詞を書いて、手話で世界に働きかけることができたらどんなに素敵なことなのだろうと思い、ギターの授業にもチャレンジしています。本当に自分が伝えたい言葉を大切に紡ぎ、メロディーを集めていくことは、私にとってとても難しいことです。

でもいつかきっと、私だけの曲と歌詞を完成させて皆の前で披露したいです。

私には聴覚障害があります。

大阪スクールオブミュージック高等専修学校に入学する前は、聾唖学校の中等部に3年間と高等部に1年間通っていました。

いつか聴力が上がり、障がい者手帳が必要なくなることを願っています。

私は、これからどう生きて行くかを考え、役者になりたいという自分の夢を叶えようと決心し、自分ができることを一杯して、沢山の人の笑顔になってもらえるように、この学校に再入学してきました。

他にも私は、OSM 高等専修学校のアイドルグループ「SO.ON project」にも参加しています。入学前に体験入学でチャレンジしたときには、まだ聴力も弱く、なんとなく聞こえる音と、スピーカーの振動を頼りに、必死にダンスにチャレンジしたことを覚えています。

SO.PRO で一緒に頑張ってきた仲の良い友達が、どんどん抜けて行き、あんまり友達を作ることが得意ではない私にとっては、SO.PRO は私にとって少し居心地の悪いところになっていました。

それでも何とか続けて行こうと少し前向きになった頃、聴力の左右差がひどくなり、治療に専念することになってしまいました。ますます SO.PRO から遠のいてしまい、戻りにくい気持ちになり、やめたいと思ったことも有りましたが、

いまでは夢を叶えたい一心で続けて来たことを誇りに思っています。

私が求められるのは手話でパフォーマンスをするために、いつもステージの端っこでした。

でも、気付いたんです。私を見るために、イベントの度に足を運んでくれて、ステージの端っこが見えやすい席に毎回座ってくれるお客さんがいることに。

私にとってのセンターは私がいつもパフォーマンスをするポジションだってことを。どの場所にいたって、自分を求めてくれているお客さんにとっては、その場所がセンターで、私が存在すべき場所なんだってわかりました。

3年生になり、後輩もでき、皆に必死で付いて行こうと頑張っていた私に、手話を教えて欲しいと言ってくれる、後輩や仲間ができました。

ステージや、大きなイベントにも呼んでもらえて、歌やダンスで音楽を届けています。皆で歌う曲では手話を担当させて頂いています。

ファンの方にも好評で、「手話を覚えたい!」と言って頂くことも多く、SO.ON project の曲の手話動画を制作し、初めて手話を見て下さった方にも分かりやすい解説を付け、アップロードしています。

その成果もあり、SO.ON project の手話をする曲では、お客さんも一緒に手話をして下さることも多くなって来ています。

そのとき私は、自分の出来ることで沢山のの人に元気や勇気、夢を諦めない気持ちを伝えたいと思いました。

この学校では普通の学校では学べない環境で自分の夢を実現することに繋がる、沢山のことを学ばせてもらいました。

そのことに感謝し、沢山のの人に元気や笑顔を届けられる自分になり、夢を実現します。

ご清聴ありがとうございます。